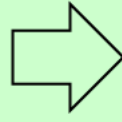


周年栽培、通年雇用を目指した作物導入、用水を活用して収量・品質向上 ～（株）むぎわらぼうし（長野県松本市）～

経営体の概要

法人設立前：平成14年度
 基幹作物：水稻0.7ha、すいか2.1ha、
 りんご0.3ha
 （合計：3.1ha）
 経営面積：3.1ha



現在：令和2年度
 基幹作物：すいか5.5ha、りんご1.0ha、
 ねぎ1.2ha、いちご(促成)0.3ha
 （合計：8ha）
 経営面積：8.0ha

取組の経緯と経営転換のポイント等

本法人は、法人化前はすいか主体の家族経営を行っていたが、経営規模拡大とそれに必要な労働力の確保のため平成19年に法人化した。

また、法人化に伴い、すいか、りんごの栽培面積の拡大に加え、新たにねぎ、促成いちごの栽培に取り組み、年間を通じた雇用と周年出荷を実現している。

事業による用水の安定供給は、すいか、ねぎ、りんご等の安定生産と品質向上に寄与し、区画整理された水田を農地中間管理事業を活用して農地を集積・集約することで、経営規模の拡大と低コスト化を実現している。

また、農産物のブランド化に取り組み、「信州の環境にやさしい農産物認証」JGAPを取得し、県内外の大型小売店等と取引している。

営農改善のポイント

①作物の変化

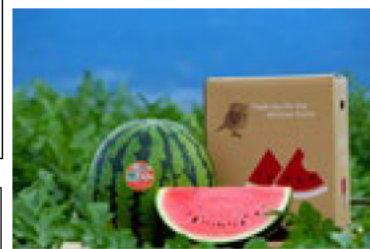
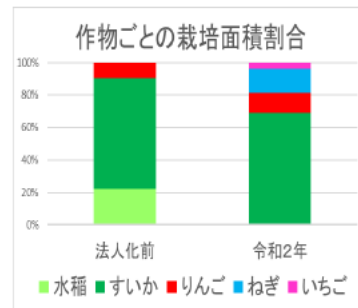
法人化前はすいかを主体に栽培していたが、リスクの分散と年間を通じ安定した労働力の確保、周年での栽培、出荷となるよう、夏はすいか、秋はねぎ、りんご、冬から春にかけて促成いちごを栽培する出荷体系を構築した。

②栽培技術の確立・向上

ねぎ栽培は定植時、梅雨入り前のかん水、りんごの省力栽培として導入した高密植栽培は適切なかん水が不可欠であり、国営事業で安定供給されている農業用水を活用することで収量、品質が確保されている。また、発酵肥料等を使用した健全な土作りにより、化学合成肥料を慣行栽培に比べ8割減、殺菌剤を5割減とする栽培方法を確立した。

③流通・販売の工夫

長野県の「信州の環境にやさしい農産物認証」を取得。さらに酵素を使った栽培や、化学肥料の使用を極力抑えた栽培方法に取り組むことで法人化後、栽培品目すべてのブランディングを進め、県内外の大型小売店等と取引している。また、すいか栽培ではJGAP認証農場を取得したことで価値を高め、販売先の信用を得て販路の拡大に繋がった。



ブランド化したすいか

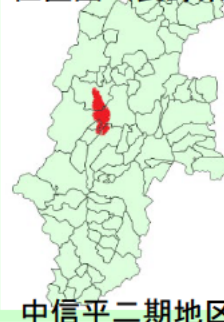


スタッフのみなさん

事業概要

事業種：国営かんがい排水事業
 関係市：長野県松本市、安曇野市、塩尻市、山形村朝日村
 受益面積：8,847ha
 事業期間：平成17年度～平成26年度
 事業目的：用水改良
 主要工事：頭首工1か所、用水路L=28.5km

位置図（長野県）



中信平二期地区

<問い合わせ先>

関東農政局
 農村振興部農地整備課
 電話：048-600-0600

（令和2年度調査時点）